

メインセンター新システムの概要

総合情報基盤センター
技術専門職員 小野 隆久

1. 新システム導入の背景と目的

コンピュータとネットワークなどからなる情報基盤は、1990年代以降になり、全ての教育研究分野で不可欠となるとともに、大学運営に不可欠なものとなっています。

情報技術の役割りの変遷に対応して、佐賀大学における情報基盤体制はその組織を変更してきました。情報処理センターから2000年に改組した学術情報処理センターは、計算資源の提供だけでなく、電子化された学術情報一般の収集・公開のための電子図書館システムを附属図書館との連携の下に運営することを業務として新たに発足しました。

2003年10月の佐賀医科大学と佐賀大学の統合、更に2004年4月の法人化を受けて、大学の広範な活動状況のデータベース化に対応するために、新しい体制作りとシステム作りが必要となり2006年2月に総合情報基盤センターが発足しました。

今回導入する新システムは、佐賀大学の教育研究の情報基盤を構成するだけでなく、大学運営のなかで共通的に活用される情報基盤を構成するシステムです。従って、学生から教職員までの利用者の多様な利用形態での学習、教育研究及び事務を支援するためのシステムとなっています。

2. 新システムの構成

新システムは、下記のシステムで構成されています。

- (1) 教育研究用システム
- (2) 電子図書館システム
- (3) 附属図書館業務システム
- (4) 事務情報・学生情報システム
- (5) 基盤ネットワークサービスシステム

2-1 教育研究用システム

教育研究用システムは、10TBの利用者用のディスク容量を持つファイルサーバと教育用サブシステム、研究用サブシステムで構成されています。

教育用サブシステムは、前システムのVID (Virtual Image Distributor) システムを継承していますが、ハードウェアの性能アップとWindows系OSとUNIX系OSの変更、ソフトウェアのバージョンアップなどを行いより使い勝手の良い情報教育環境が提供できるシステムとなっています。また、メインセンター大演習室のPC端末と同じ利用環境の利用者用PC端末を附属図書館本館に50台、就職課に10台設置しました。

研究用サブシステムは、教職員、学生の研究を支援するためのシステムとなっており、各種アプリケーションソフト及びプログラミング環境を有した高性能な研究支援用UNIXサーバ、B0サイズまで印刷できる大型カラープリンタなどで構成されています。

2-2 電子図書館システム

電子図書館システムは、前システムで構築した雑誌論文、学位論文、貴重書、植物資源、シラバス、教員基礎情報、研究成果公開の各データベースを継承し、それらのデータベースをさらに充実させるためのデータ作成支援システムとWWWによる検索システムから構成されています。

2-3 附属図書館業務システム

附属図書館業務システムは、図書館業務、図書館資料の管理、利用者サービス及びWWWを介した利用者向け情報サービスを提供します。

新システムでは、前システムで構築したOPAC、学内目録、学内ILLの各データベースを継承するとともに図書受入管理、雑誌受入管理、目録管理、閲覧管理、所在管理、図書館間相互貸借(ILL)、ドキュメントデリバリーシステム(DDS)、オンライン閲覧用目録(OPAC)、利用者向け情報サービス、システム管理の各業務を包含し、より高度な情報提供サービスを実現するシステムとなっています。

2-4 事務情報・学生情報システム

事務の認証システムに対応するための業務用PCを整備するとともに教務及び就職関連業務を支援するための教務事務情報システムと就職情報システムを導入しました。

教務事務情報システムは、カリキュラム・成績管理、学籍管理などを行い、学生の学習活動、教員の教育活動、教務担当事務を支援するシステムとなっています。

就職情報システムは、企業情報提供、就職活動支援、進路情報管理、就職活動状況管理、就職活動状況統計及び帳票作成、就職情報システム管理などを行い、学生、教員、就職担当事務を支援するシステムとなっています。

2-5 基盤ネットワークサービスシステム

基盤ネットワークサービスシステムは、学生及び教職員を含む本学の全構成員に関する利用者データベースを構築しWindows系システム及びUNIX系システムで共通の認証ができる統合認証システムと新システムのネットワーク構築と適切なセキュリティレベルが設定できる通信機器等で構成されています。